

第1205回経営委員会資料  
平成26年1月14日

平成25年度 第6回  
視聴者のみなさまと語る会開催報告書  
(平成25年11月9日山口放送局開催)  
(案)

経営委員会事務局

< 会合の概要 >

「経営委員会による受信者意見聴取」の平成25年度第6回は、山口放送局で実施し「経営全般」「放送」の二つのテーマで、公募による48名の視聴者のみなさまからご意見を伺った。

< 会合の名称 >

「視聴者のみなさまと語る会 ～NHK経営委員とともに～」in 山口

< 会合日時 >

平成25年11月9日（土） 午後2時～4時

< 出席者 >

【視聴者】 公募による視聴者 48名

【経営委員】 石原 進 （委員）

上田 良一 （委員）

【執行部】 石田 研一 （専務理事）

下川 雅也 （理事）

氏原 茂 （山口放送局長）

【司会】 山本 哲也 アナウンサー

< 会場 >

NHK山口放送局 1階（情報発信コーナー）

< 開催項目 >

以下の通り進行した。

1. 開会あいさつ

2. 経営委員による説明

協会の基本方針その他協会の運営に関する重要な事項について

3. 意見の聴取

（1）NHKの経営全般について

（2）NHKの放送について

4. 閉会あいさつ

「視聴者のみなさまと語る会」終了後、「朝の連続テレビ小説『ごちそうさん』制作の舞台裏」と題して、大阪放送局の木村隆文専任ディレクターによるトークショーを開催した。

## <反響・評価>

- ・公募の結果、はがき、ホームページなどを通じて計62名から参加の申し込みがあり、全員に案内を送付した。その際、参加者の意見把握と参加意志確認のために事前アンケート調査を実施したところ、49名の方から返送、回答があり43名のみなさんが参加すると答えていた。
- ・当日は48名のみなさまが来場された。なお、事前アンケートで寄せられた意見などについては、とりまとめて当日参加者へ配付した。
- ・「経営全般」と「放送」の二つのテーマを設定し進めた。参加者からは、「受信料の減額」「NHKオンデマンドの無料化」「ニュース報道、災害報道への意見」「放送による地域の活性化」など多岐にわたる意見や提言が寄せられた。
- ・終了後、意向集約のアンケート調査を行ったところ、47名の参加者から回答をいただいた。
- ・参加者の満足については、「大変満足」8名(17.0%)、「満足」31名(66.0%)、「普通」7名(14.9%)という回答で、未記入の方が1名(2.1%)あったが、「不満」、「大変不満」という回答はなかった。
- ・また、回答者の48.9%にあたる23名の方が「経営委員会の仕事をよく知らなかった」としていたが、「語る会」の終了後は、「よく知っていた」「知っていた」と答えた方もあわせて80.6%にあたる38名の方が「経営委員会の活動について理解が深まった」と回答した。

## 《協会の基本方針・重要事項の説明》

(上田委員)

経営委員の上田です。

NHKの経営委員には本年6月に常勤として任命されました。早速ではありますが、私ども経営委員会の役割からご説明させていただきたいと思います。

経営委員会の役割は、放送法に明文化されており、NHKの経営の基本方針などの議決や、会長以下NHK執行部の役員の業務の監督など、NHKの経営に対して重い責任を負っております。こうした役割を持つ経営委員会の委員は、衆参両議院の同意を得て、内閣総理大臣より任命されます。委員の選定に当たっては、教育、文化、科学、産業、その他の各分野及び全国各地方が公平に代表されることを考慮しなければならないということも放送法に規定されています。経営委員の任期は3年で、再任されることもあります。委員の定数は12名ですが8月と9月にお2人の委員が退任され、現在10名と

なっております。本日の新聞などの報道でご承知の方もいらっしゃると思いますが、お2人の欠員の補充と任期満了に伴います改選も含めまして、新たに5名の委員の方々の同意人事が昨日の国会で可決されました。これによって、近々定数12名に戻る予定になっております。

また、経営委員の中から監査委員が任命されることになっており、経営委員を含めた役員の職務の執行を監査する役割を担っております。現在その監査委員を井原委員、渡邊委員、そして私、上田の3名が務めております。放送法では、この監査委員のうち少なくとも1名は常勤であることという規定があり、その規定に基づいて井原委員と私が現在、常勤となっております。

そして、私ども経営委員がただいま申し上げましたその重責を果たすため、視聴者のみなさまのご意見を伺うことも法律に定められております。本日はその機会として、みなさまからNHKに対する忌憚のないご意見を聞かせていただきたいと思っておりますが、会合においては、経営委員がNHKの基本方針や重要事項を説明することということも定められておりますので、いま少しお時間を頂戴しまして、平成24年度から26年度、3か年のNHK経営計画ならびに平成25年度の収支予算と事業計画につきまして、簡単に触れさせていただきます。

まず、24年から26年度のNHK経営計画についてご説明します。計画は3か年の基本方針のもとに4つの重点目標で構成されております。基本姿勢として、公共放送の原点に立ち返り、その役割の達成を目指すことを強く意識しております。

重点項目の1つ目は「公共」です。東日本大震災でのさまざまな体験や教訓を生かし、いかなるときにもみなさまの安全・安心を守るための情報を、いち早く正確に提供するため放送機能を強化します。2つ目は「信頼」です。世界に通用する質の高い番組、そして日本、地域の発展につながる放送や、サービスの充実に取り組むというものです。3つ目は「創造・未来」です。進展する放送と通信の融合時代にふさわしい新しいサービスを充実させてまいります。4つ目は、「改革・活力」で、効果的な経営を行い、公共放送の価値を高めるとともに、受信料制度をご理解いただき、受信料の公平負担に向けて努力します。

また、視聴者のみなさまへ受信料を還元するために、NHKにとりましては事実上初めてとなります受信料の値下げをお約束し、昨年10月から実施しております。

続いて、平成25年度の収支予算・事業計画についてご説明します。25年度は、先ほどご説明いたしました3か年経営計画の2年目として、計画に掲げました4つの重点目標に取り組んでいるところであります。全体的な予算規

模は、6,479億円となっております。特徴として、事業収入の6,479億円のうち、96%をしめる6,221億円、ほとんどの収入が視聴者のみなさまからの受信料によって成り立っていること。一方、事業支出については全体の75.6%、約4分の3が国内放送番組の制作と送出などに充てられていることが挙げられます。この25年度の収支予算についても、もう少し説明を加えさせていただきますと、事業収入は、24年度と比較して10億円減少しており、6,479億円となっております。そのうち受信料につきましては、先ほどご説明させていただきましたように、昨年10月からの値下げが1年を通して実施されますために、減収の影響が大きくなりますけれども、全組織を挙げた営業活動によりまして増収を図り、6,221億円を確保する計画となっております。

事業支出は、国内放送や国際放送の番組の充実、それから公共放送の機能強化の拡充、前倒しを行う一方で、事業運営の一層の効率化を行い、24年度と比較いたしまして10億円抑制を図り、6,479億円としています。その結果、経営計画で見込んでおりました47億円の赤字に対して、受信料等で28億円の増収を図り、一方、効率的な業務運営により支出を18億円抑制することで赤字を解消し、収支6,479億円の均衡予算を作成しています。

続いて、25年度の重点事項の具体的内容について簡単にご説明させていただきますと思います。まず、1番目の「公共」、公共放送の機能強化と東日本大震災からの復興支援についてであります。公共放送の機能強化については、南海トラフ巨大地震によります被害想定の見直しに対応いたしまして、設備投資の拡充や計画の前倒しを実施いたします。機能強化の具体的な内容としては、放送センターの機能が停止した場合に備えて、大阪放送局にバックアップ機能を整備するほか、津波等によります長時間停電に備えて、各地域の放送会館やテレビ・ラジオ放送所等の電源設備の強化等を行います。

2番目は「信頼」です。世界に通用する質の高い番組と地域放送サービスの充実についてであります。国内放送では各チャンネルの特性を生かして、多様で質の高い番組を放送するとともに、冬季のソチオリンピック・パラリンピックの放送を実施します。「国際発信力の強化」に関しましては、国際放送のNHKワールドTVの英語によるニュース『ニュースライン』という番組がありますが、これを平日は毎正時ごとに全て30分に拡大して放送しています。地域放送では、地域の放送局が地元を舞台にしてドラマなどを制作し、全国に向けて積極的に発信するなど、それぞれの放送局の特性を生かした取り組みをいたしております。

3「創造・未来」は、放送と通信が連携する時代にふさわしい新しいサービスについてです。スーパーハイビジョン8Kの実用化に向けた研究開発に積極的に取り組むとともに、放送と通信の新たな連携サービスでありますハ

イブリッドキャストについては、ことし9月2日からサービスを行っております。また、過去に放送いたしましたものをごらんいただけるNHKオンデマンドは、有料ではありますが、ごらんいただける番組を充実させ、あわせて利便性を高め、利用者の拡大を図ります。

最後の4「改革・活力」として、公共放送の価値を最大化するためには、視聴者のみなさまからの評価に基づくNHK独自の手法により、経営計画の達成状況を管理・検証していきます。以上が平成25年度収支予算事業計画の説明でございます。

ただいまご説明いたしました経営計画、25年度の事業計画を着実に実行します。それとともに、視聴者のみなさまからいただきますご意見やご要望は、大変貴重と考えておりますので、本日、山口放送局にお集まりいただきましたみなさまから頂戴いたしますご意見やご要望は、私ども経営委員全員はもちろん、執行部とも共有して、今後のNHKの経営に反映させてまいりたいと考えております。どうぞ、よろしく願いいたします。

#### 《視聴者のみなさまからのご意見とNHK側からの回答》

##### 第一のテーマ：NHKの経営全般について

##### 【会場参加者】

受信料について意見を言いたい。私は後期高齢者の独居老人なので、年間3,000円程度の受信料で済むよう、段階的に値下げしてほしい。NHK杯フィギュアスケートや相撲など、放送に多額の権料がかかるものは、スカパーのように有料化して放送すべきで、所得の少ない年配者に対しては、別途料金体系を設けるなどして、受信料を減額してほしい。

##### （上田委員）

受信料については、放送法でテレビの受信機を設置した方にご契約、お支払いいただくということになっております。また、公的扶助の受給者や社会福祉施設などに対する全額免除や半額免除等のさまざまな規定がありますが、免除の規定も全てNHK単独で決められるものではありません。総務省の認可を頂戴する、国会の承認をいただくということで、受信料は決まっております。おっしゃることは良くわかりますが、国民の安心・安全につながる確かな情報をいつでも、どこにも、誰にでも伝える、あるいは、豊かな文化を分け隔てなく伝えるという目的を果たすための社会的インフラと捉えていただき、どういう便益を受けているから、それに対して払うということ

ではなく、公共放送を支えていただく、というご理解をいただければと思います。お答えになっていますでしょうか。

**【会場参加者】**

NHKの現在の受信料については、その額がどのように決められるのか、その原価、単価を教えてください。

(上田委員)

NHKの受信料は、ほかの公共機関と同じように総括原価方式といたしまして、かかっているコストを負担していただくという、そういう仕組みになっています。したがって、コスト、経費が効率的に使われるように、国民を代表して目を光らせるという、そういう立場に私ども経営委員はあるわけです。この総括原価方式、かかっているコストをご負担いただくということには、メリット、デメリットそれぞれあります。視聴者のみなさまからするとコストの中身がわかりにくいというデメリットがある一方で、安定的な収入があることで、中長期的な視点に立った、本来、公共放送が目指すべき、果たすべき役割をしっかりとやっていけるというメリットもあります。損益的にも最終的に利益を追求するということはありませんので、かかったコストだけを負担いただくということもあります。また、先ほどお話ししたように、昨年10月から受信料を7%ほど値下げしています。大変な努力によって、平成25年度の予算ができるだけ収支均衡となるように、今執行部のほうで努力をしていますが、こうしたことをしっかり経営委員としても注視し、適正な受信料になるように、今後もきちんと管理、監督していきたいと考えております。

**【会場参加者】**

私は少し観点が違うが、放送番組の取り組みの姿勢ということについて、数日前に見た番組で命の尊厳について唖然とした思いを感じたので意見を言いたい。東京で制作された『ひるブラ』という番組で、内容は、アナウンサーと俳優が、あるマーケットを歩き、いけすの中のイカを釣り上げて、それを即座に切り開いて食べるというもの。ぴちぴちはねて、生きのいいということで、皿に載ったイカもまだ少し足が動くというのを画面に映して、それを俳優が笑いながら食べるという放送だった。人の命も魚の命も命の重さは変わらないと思うし、宇宙にはいろんな命があり、お互いの命を守っているという中で、こういう放送が、公共放送の役割を果たす質の高い放送とは思えない。人にはいろいろな考え方があると思うが、人の命を簡単に殺すという

ような現在の世相というか、風潮がある中で、公共的な放送の電波でそういうことを流す、放送をするという姿勢についてあえて質問した。

(石田専務理事)

今お話のあった、人間だけではなくいろいろな動物や植物の命や自然を守るということは大変大切なことだと思います。ご指摘の番組が、いつ放送したものかなど、わからない部分がありますのではっきりとお答えできないのですが、命を大切にすること、自然を大切にすることは大切にしながら放送したいと思います。ただ一方で、人間というのは魚を食べたり豚や牛の肉を食べたりすることで命をつないでいるということもあります。そういうことも念頭に置きながら物事を考えていかなければと思いますのでご指摘の番組が、その命に対して残酷というか無慈悲なところがあるとしたら、調べて対応したいと思いますが、そういう観点で番組をつくっているということをご理解願いたいと思います。

【会場参加者】

今のことに反論するわけではないし、また、お互いに人の命もそういう多くの命の恵みにおいて生かされているということはわかるけれども、私が言わんとするのは、あえてぴちぴち、「いきのいい」ということを公衆の放送電波に乗せて、あえて大きく画面で見せなくても、実際にいきのいいのわかるような放送の仕方ということについて一考してもらいたいということだ。

(石田専務理事)

今伺ったご意見を参考にして、今後の番組づくりに生かしたいと思います。

(司会)

今ちょっと命の尊厳というふうに、放送そのものについての2つ目のテーマのほうに話が入りましたけれども、あえてここでお答えさせていただきました。ありがとうございます。テーマを受信料、それから経営計画、経営全般に戻してご意見を伺いたいと思います。

【会場参加者】

事業収入にもつながることかもしれないが「NHKオンデマンド」について聞きたい。これは有料配信で受信料以外に更にお金を支払わなければならないと思うが、このオンデマンドが経営に占める割合について聞きたい。今後、



事業収入の中で増えてくるものと思うので内容を教えてほしい。

もう一点、放送と通信の連携・融合について。今ツイッターやフェイスブック等、いろいろとSNSを番組の中で利用しているが、ハイブリッドキャストを含め新たなサービスが今後どのようなようになるのか、更にこうしたことも可能になるだということを知りたい。

### 【会場参加者】

NHKオンデマンドの話が出たが、受信料を払っている上にまた払わなければならないという、二重に取られるような感じで、当初は少しやっていたが、今は使っていない。受信料を払っている人を無料にするというシステムがなぜできないのか聞きたい。大変いいコンテンツなので、導入してもらえればありがたい。

(石田専務理事)

オンデマンドがどのくらいの収入かというご質問ですが、25年度の予算では、オンデマンドの収入は17億円ぐらいを予定しています。決算段階では少し増えるかと思いますが、17億円程度となっています。受信料収入が、6,200億とか6,300億という額ですので、額からいくと非常に少ない額ですが、スタートしてから毎年オンデマンドの収入は伸びています。ここまで毎年単年度では赤字だったのですが、来年の26年度の予算をつくる段階では何とか収支均衡にもっていきたいということで今検討しているところです。

それからハイブリッドキャストに関してですが、この放送と通信を融合した新しいサービスを、今年9月2日から始めました。現在のサービスは、私ども「独立型」と呼んでいます。ニュースや気象情報などデータ放送と余り変わらないものです。ただ、データ放送というのは、放送の電波を使っていますので、たくさんの情報が送れませんが、ハイブリッドキャストは通信で送りますので、もっとたくさんの情報が送れるというメリットがあります。この先、今年の暮れか来年になるかもしれませんが、番組と連動したサービスを始めたいと思っています。例えばサッカーの試合や野球の試合は、たくさんのカメラで撮っていますが、実際に放送されているのは1台のカメラの画面になります。視聴者が自分の好きな選手を追いかけているカメラの映像を選択してiPadなどで見ることができるとか、放送を見ながらその選手に対する情報を得ることができるといったこと。それから、経済番組をご覧いただく時にハイブリッドキャストを使うことで、今、放送しているテレビに新たな情報や統計の数字などが同時に見られるようなことや、クイズ番組などを双方向にやるといったことが可能になります。まだハイブリッドキャ

ストが利用できるテレビは、市販されているものが少ないのですが、これからは、新しく買い替えるテレビには、ハイブリッドキャストに対応したテレビがどんどんふえてきますので、そういう可能性を探っていきたいと思っています。

それから、「オンデマンド」を無料にできないか、というお話がありました。確かにそういう考え方もあると思いますが、一方で、今、衛星放送は別に付加料金をいただいています。オンデマンドについても普通の放送にプラスしたサービスですので、そのサービスを享受されている方から料金をいただいています。もし、オンデマンドを無料でということにしますと、オンデマンドを全く見ていない全ての視聴者からいただいた収入でオンデマンドの費用を賄うということになります。今、法律上オンデマンドについては受信料の収入とは別会計にするように法律で定められていますので、そうせざるを得ないということがありますが、実質的に視聴者の方の要望や、見ていない方からいただく受信料の中でオンデマンドの経費を賄うということがいいのかどうかについては、議論があって、最終的には国会で議論して、その法律の制度の立て方を変えていただかないと、NHKだけではできません。国会でどういう理解をされるか、また、視聴者にご支持いただけるかということが、一つのポイントだと考えています。

(上田委員)

テレビではハイブリッドキャストという話が出ていますけれども、ラジオの通信と放送の融合という点では、「らじる☆らじる」というインターネットでラジオが聞けるサービスがあります。これは無料で、登録いただければ聞くことができるというのですが、電波の具合で聞き取りにくいことがあるラジオに比べ、非常に音質がよく、クリアに聞くことができます。インターネットの設備をお持ちであれば、この「らじる☆らじる」という通信と放送を融合したラジオのインターネットサービスをご利用いただければと思います。

【会場参加者】

私は主にNHKのニュースを見ている。他の局の放送と比べ、やはりNHKの放送は映像にしても内容にしても、一段上ではないかと思う。現場で取材される職員の質が非常に私は高いと思っている。技術料がそれでかかっていると思うので、ある程度の負担は国民がしていかなければいけないと思う。NHKの公明正大なニュース番組等について私自身は、信頼している。

【会場参加者】

先ほど受信設備を持つ者が受信料納付の対象者という話があったが、今は、ワンセグでテレビが受信できる。それからカーナビでも見られる。そういう視聴者からも受信料をもらうことになると思うが、受信設備を整えた視聴者の把握はどのようにしているのか？

【会場参加者】

受信料を高齢者については減額すべき、などという話があったが、基本的には受益者が払うというのが当然だと思う。一方、NHKは高いレベルの放送をしているわけで、これは昔から議論があるが、例えば政治と放送の中立性ということがあってなかなか難しいかも知れないが、設備自体についてはいわゆる税金を投入する、税の中から払っていけば全員が払っているということになるわけで、そういう議論は国会でないのだろうか。つまり、受信料として払う人もいる、払わない人もいる、受信料が高いと思う人もいる、安いと思っている人もいるならば、税の一部で少なくとも、共通の設備費については税金の中から出していくという考えはどうか。もちろん政治と切り離すという議論は当然あるにしても、基本的なインフラ部分は税を投入して対応するという議論が国会ではないのかというのを伺いたい。

(司会)

全額税金ということではなく、設備については税金を投入したらどうだというご意見ですね。

【会場参加者】

全額税でもいいと思うが、そうなると放送内容に非常に政治が絡んでくるだろうということであるので、災害の放送をするにも、インフラが当然要るわけで、そういうインフラ部分については税の中でみてもいい範疇ではないかなど。

(石田専務理事)

ワンセグやカーナビでテレビを受信できれば、そこから受信料をいただくということになっています。ただ、実際には、受信料は世帯ごとにいただいていますので、自宅にテレビがあって携帯・ワンセグでご覧になる場合は、自宅のテレビのご契約で受信料を頂戴していましたら、同じ世帯に2台あっても3台あっても同じ料金ですので、新たに受信契約をいただく必要はありません。カーナビについても、営業用車両であれば、別に受信料をいただくこ

とになります。自家用車の場合は、ご自宅の一部ということでワンセグと同様に扱っています。ご指摘のように学生さんの中には、実際に家にテレビを持っていなくて携帯のワンセグだけで見ているという方もいらっしゃいますが、これはなかなか把握が難しいという問題があって、本当の意味で全て捕捉できるかという、やはり課題があると思っています。

それから、設備のお話です。受信料制度については、ヨーロッパもイギリスのBBCをはじめいろいろな公共放送があって、それぞれ受信許可料であったり放送負担金などであったり、さまざまな名称で受信料を徴収しています。フランスでは、ほとんど税金と同じような形で徴収していますが、確かに政治との距離の問題や公共放送か国営放送かという放送の自主自律、公平公正という問題点があります。イギリス・BBCについては、日本と同じ受信料制度をとっていますが、ドイツではテレビが家にあるかどうかではなくて、全ての世帯から徴収する受信料制度であるなど、国によって、さまざまな形があります。それから、ハードの面だけ税金でまかなうというお話がありました。そういうやり方も選択肢の一つではありますが、日本のテレビ局は、NHKも民放も、送信の設備等、いわゆるハード面と、コンテンツをつくるいわゆるソフトの面と両方が一体となっています。ご提案のようなハード面とソフト制作を分離するという形の受信料制度を考えるという議論は、今のところ、国会内や政党の中で、私どもの聞いている限りでは出てきていません。

（上田委員）

先ほど、総括原価方式というお話を申し上げましたが、以前は、かかるコストが増えるに従って、受信料を値上げさせていただくということでやってきました。昨年10月、初めて7%ほど受信料を値下げし、今その7%を減額した受信料で収支均衡とするという努力をしております。みなさまからお預かりした受信料が正しく使われているかどうか、効率的に使われているかどうかをしっかりと見ていくのは、私ども経営委員会の役割となっていますので、引き続きしっかりと我々の役割を認識して監視していきたいと思っています。無駄な支出等があれば、それは何らかの形で還元することも将来的には出てくるかもしれませんが、一方で環境の変化に対応した正しい設備投資、国民の安全・安心を守るために24時間放送を絶やさず皆様にお伝えしなければならないということもありますので、そういう震災対応への投資も考えていく必要があります。

万一、東京直下型の地震が発生した場合に放送が中断してしまうことにならないよう、東京だけでなく、大阪放送局でも緊急時に即刻対応ができるよ

う、手当ても進めております。今後ともしっかりと、今申し上げたことも見ながら経営委員としての役割を果たしていきたいと思っております。よろしくお願いたします。

(司会)

ここまでは経営、受信料など、経営全般に関するご意見をいただきましたが、続きましては、もう一つのテーマ「放送」について、ご意見を伺いたいと思っております。

第二のテーマ：放送について

【会場参加者】

私はテレビ派、ラジオ派ということ言えば、9対1でラジオ派。山本アナウンサーの5時からのテレビや山口出身のアナウンサーが東京で活躍している番組は見ているが…。ラジオでは、特に「ラジオ深夜便」のファン。やはり、災害のときに最大に役に立つのはラジオであると思うので、ラジオの設備投資、充実を図ってほしい。

また、山口局から異動で東京へ行くアナウンサーは優秀で、大学の先生を思わせるような知識のアナウンサーがたくさんいる。番組に芸能人を登用するのは一つの方法だと思うが、極力、アナウンサーを登用した番組を多くしてほしいと思う。

【会場参加者】

私もどちらかというとラジオ派だが、NHKの番組については全体として健全性という点では評価をしている。きょうは政治の動きに関するニュース報道について3点話しをしたい。

1つ目は、毎回国会の開会に当たっては、代表質問や予算委員会の基本的質疑が始まる初日の質問者と質問の要旨がその日のニュースで放送される。しかし、2日目、3日目のそれはほとんど放送されない。議席の大小にかかわらず質問者を公平に同じように扱うべきではないか。質問者、政党を公平に扱って国民に丁寧に知らせてほしい。

2つ目、国会では今重要な法案が審議をされている。国家安全保障会議設置法案、略して日本版NSC、もう一つは特定秘密保護法案。この2つの法案の審議をめぐるNHKの報道は、政府提案の内容説明と与党の調整の様子が主で、法案に反対する政党や市民団体の抗議行動などは非常に小さな扱い

になっている。この法案の中身は戦争国家へ重大な一歩を進めるものであり、国民の目や耳や口をふさぐものだと、法案の審議の中で多くの危険な内容が指摘されているが、指摘されているにもかかわらず、NHKのニュース報道からは、こうしたことが余り伝わって来ない。NHKが10月16日にとったアンケートの回答では、秘密保護法案の内容を知らないという人が74%も国民の中にいる。審議の内容を丁寧に国民に知らせてもらいたい。

もう一点、NHK経営委員の人事が、きのうの国会で承認された。きょう出席の石原委員をはじめ5人の委員が承認されたが、5人の経営委員の中で石原委員を除く4人は安倍首相に近い人だと言われている。この件については、市民団体から抗議と撤回を求める声が上がっている。また、時事通信の電子版によると、共産党の志位委員長、社民党の又市幹事長とともに記者会見をして、人事案については安倍晋三首相と特別の関係があり、公共放送の私物化になりかねない。そして保守色の強い人選に同意できないとして、この2人は反対の意を表明している。公の政党の幹部が記者会見で表明したことをNHKは、国民にきちんと知らせるべきではないかと思う。経営委員の人事については非常に国民も心配している。安倍さんが自分に近い人を経営委員会に送り出して、NHKを安倍さんの意のかかったそういう放送局にしようという働きがあるんじゃないかという心配もされている。いろいろな運動、それから政党の見解表明を公正に報道してもらいたいということを強く求めます。

(石田専務理事)

ラジオについては災害報道も含めて非常に大事なメディアだと思っています。特に東日本大震災のときには、長時間停電になって、結局災害報道も最初のうちしばらくは、ラジオしかなかったという時間がありました。そういうこともあって、東日本大震災の後、ラジオについてはもっと強化しなければならないと考え、設備的な投資を行っています。また、仙台放送局では、夕方にラジオの県域放送をする時間をつくりました。ふだんから県域放送をラジオで行うことでラジオが災害時などいざというときに役立つようにしようという取り組みもはじめており、そうしたラジオの強化は今の経営方針の一つの柱にもなっております。

それから、国会の話がありました。国会が始まりますと所信表明が行われます。次に代表質問が行われますが、代表質問は、通常3日間行われ、1日目は衆議院、2日目には参議院、衆議院、3日目には、また参議院で行われます。2日目の最初に代表質問が始まる時には、何党というよりも、3日間を通じて政府のこういうことに対して野党、例えば民主党なりほかの政党

がこういう点を追及してくるとか、こういう点を問題・課題にして代表質問を行うということを放送していますので、代表質問の1日目、2日目、3日目というより1日目の最初のときに野党としてこういうことを課題としているということを伝えるのが現行のスタイルとなっています。そういうことで放送しているということをご理解いただければと思います。

それから、NSCの問題についてはもちろん政府の提案と、これをめぐる自民党と公明党のさまざまな調整の話や、一方で野党のいろいろな声明や、弁護士会の声明なども取り上げて放送しています。政府に比べると少し数が少ないのではないかという印象があるかもしれませんが、市民団体をはじめ、いろいろな団体の意見も含めて放送しております。それから、NHKの『日曜討論』という番組があり、与野党8党の代表の討論を放送していますが、その中でもこのNSCの問題とか、特定秘密保護法の問題を取り上げていますので、与党、野党それぞれが、自分たちのこの法案に対する、与党からすれば必要性、野党からいけば問題点というような形でNHKとしては伝えさせていただいていると思っています。十分でない点もあるかもしれませんが、NHKとしては与党、野党それぞれの意見が反映できるよう配慮しながら伝えたいと思っています。アナウンサーのことについては下川理事のほうから。

(下川理事)

なるべくNHKの職員、アナウンサーを使うべきだというご意見をいただきました。私どもも基本はそのように考えています。アナウンサーといわゆる外のタレントさんの使い方で、やはり絶対に譲れないのはニュースや情報番組の基本のところですか。そうした番組については、職員アナウンサーでと考えています。地方局については、やはりアナウンサーを外せないということがあって、実はNHKのアナウンサーの半分以上、3分の2近くは全国の放送局で勤務しています。ですから、東京にいるアナウンサーは実はそんなに多くありません。

加えて、アナウンサーの需要そのものは、増えています。昔と比べるとおわかりいただけるかと思いますが、例えば朝の番組にしても昔は1人のアナウンサーで対応していましたが、今、そうした演出では、なかなか多くの方に見ていただけません。必ずメインのアナウンサーとサブのアナウンサーがいて、かけ合いでやるなど、1つの番組に2人とか3人で番組を進行するケースが増えています。そういう意味でも、アナウンサー、キャスターの需要が大変増えてきています。

また、例えば、山口出身でいうと小野文恵アナウンサーがいますが、彼女は、今、『ためしてガッテン』を担当し、『鶴瓶の家族に乾杯』をやって、

それから『ニュース深読み』も担当しています。これ以上は、身体を壊してしまいますので、ご勘弁いただきたいと思いますが、そういう、忙しい状況があります。それからもう一つ、私どもはタレントさんを使う際も、そんなに妙なタレントを使ったりはしていないつもりですし、それからタレントを使うといっても、民放のようにただタレントをたくさん並べてストーリーもなく勝手にしゃべってくださいというような使い方はしていないつもりです。あくまでサブという形で、番組を見てくれる人たちのレンジをある程度若い人まで広げていくための一つのサポート役というような形で使う、そういうような限定的な役割で考えており、それを基本的な方針としています。

(石原委員)

経営委員の同意人事の話が出ました。今回国会で承認されたみなさんについては、評論活動とか、企業の経営実績などを見ていると大変立派な方々だと思っています。本田さんについては、個人的にも存じ上げていますが、素晴らしい人格と経営実績を持った方です。単に、安倍首相の家庭教師をやったことがあるというだけで、本田さんを否定するということには全くならないと思います。NHKの基本は、放送法に明記されているとおり、公平公正、不偏不党です。今回選任されたみなさんは、法律をしっかりと守る人たちです。私は何の心配も要らないと思っています。

【会場参加者】

まず、災害の放送について。近年、異常気象で本当に災害が多く起こる。私たちは災害があった時には、NHKをかけて得る情報で安心感を得るという実感を持っているので、災害放送については今後も強力に進めてほしい。

もう一点、NHKの「朝の連続テレビ小説」や「大河ドラマ」といった放送は地域の情報が全国に放送され、そのことが地域の元気のもととなる。山口県は昭和52年に『花神』で大村益次郎を取り上げた大河ドラマがあったが、その後はなくて、非常に寂しい思いをしている。5年後の平成30年は、明治維新150年で、山口県は維新に関係した人物、史跡など素材がたくさんあるので、ぜひ大河ドラマあるいは朝ドラの放送を検討してもらいたい。

【会場参加者】

先日の災害について。NHKでは、いち早く対応してくれた。そして、山口、萩、津和野の誰も経験したことのないような集中豪雨についても全国放送で、またマスコミ各社でも、延べ5日、6日にわたって取り上げられた。これがいい話題であれば大変感激だが、かつてない観測史上最高であるとか、そう



いうことばかりが出たことで悪いイメージを与えて、結局、山口県を訪れる人が減ってしまった。津和野のあたりは大道も、山口線も不通になったということで、訪れる人がなくなり閑散としてきているなど、その影響がいまだに続いている。災害放送はどんどんしてもらおうべきで、東北の震災のときも、それが世界的に放送されることで、いろいろな国からも助けられているが、こうした地域での災害については、後のフォローが大切だ。先日、京都でも嵐山一帯の堤防が決壊して観光地に大被害を与えたという報道があった。10日後ぐらいには復旧して、たくさんの方がまた訪れ始めたという。「災害は復旧して、きちんと見学もできるようになった」という放送までされていたが、山口や萩、津和野についてはそういう放送が一切なかった。先日SLが復活というようなことでちらっと全国に紹介されたが、災害の放送をしっ放しではなく、途中どうであるかとか、アフターというか、上手な何かフォローをしていただきたい。山の中だから、余り人が行かないところだから話題にもならないだろうと言われるかもしれないが、やはり、山口、萩、津和野といえ、やはり観光としても重要なルートなので、こういう風評被害のようなものがどんどん広がって、みなさんが山口県を避けるといった現象を早く払拭してもらおうためにも、放送で後フォローをしてもらう機会をつくってほしい。

#### (下川理事)

先ほど上田委員から紹介のありました「らじる☆らじる」について少し補足させていただきます。NHKがこのような通信系のサービスをするということについては、さまざまな議論がありまして、NHKで勝手にやれるわけではありません。この「らじる☆らじる」も、今ラジオが聞こえにくい状況にある場所について、その改善を図るために実験的にやってみましょう、ということで今年度末までの認可期間に限り行っているサービスです。さらに継続して実施する場合には、もう一度再認可を得ないとできない、ということになっていますので、そのことだけ追加をさせていただきます。

#### 【会場参加者】

先ほど話があったとおり、「大河ドラマ」とか「朝ドラ」は、本当に全国的に大きな影響がある。最近、この山口、瀬戸内を中心にした地域の放送が全国レベルで放送されているものをたくさん目にする。その中には、地元の人が見ると、なるほど、とわかりやすい番組ではあるが、その地元の知識が少ない方にはどう伝わったのか、と疑問に思うことがある。もう少し深くやってもらったらいいと思うこともあり、逆に広くやってもらいたいと思うこ

ともある。私は、下関に住んでいて、最近、阿川さんと鶴瓶さん出演の『鶴瓶の家族に乾杯』で下関が取り上げられた。そのときは阿川地区という旧豊北町地域に限定されていたので、2週にわたってかなり詳しく紹介された。逆に『ぐるっと瀬戸内の旅』など、瀬戸内海を扱う放送もあるが、下関というとフグで終わってしまうところがあったり、先ほどの大河ドラマの話でも山口は『花神』以来、放送がないという話があったが、下関では『武蔵』もあったので、下関は山口と捉えられていないなというふうに思ったりもした。皆さんそれぞれに自分の地元のことが気になると思うし、それがどのように受けとめられているかということも気になると思うので、放送などで紹介されたことが、全国的にどう受け止められたのかといったことも、知る機会があるといいかなと思う。

#### 【会場参加者】

私は県で広報の仕事をしている。県のホームページには「全国テレビに山口県が登場」というページがあり、地域の各市町のいろいろな情報がNHKで放送されるときは、そこに掲載していて、大変好評を得ている。そのページを通じてみなさんに地元が取り上げられた番組に興味を持って見ていただいている。自分の住んでいる地域でも、知らないことはたくさんあって、NHKには、地域の話題を、また地域が元気になるような放送をたくさんしてほしいと思う。NHK山口放送局のホームページ内にも「お勧め番組」というコーナーがあり、地域が取り上げられる番組の情報がどんどん掲載されるので助かっている。また、そうした地元と地元の放送局との連携といったことが地域を活性化したり、地域を元気にしたりすることになり、私たち自身が地域に愛着を感じる助けになっていると思う。

#### 【会場参加者】

先ほどから、大河ドラマの話が出ているので一言。いつも幕末を扱うときには必ず長州が出てきて、今年の『八重の桜』でもそうだが、何か少し憎まれ役みたいなことが多くて、少し寂しい思いをしているみなさんもたくさんいるんじゃないかと思う。いつの日か長州が主役になれるような、何でもいいのでそんな放送をしてもらえたらうれしい。

#### （石田専務理事）

災害報道のことですけれども、先ほど申し上げたように、NHKでは災害報道を大変重要な課題と考えています。放送法でも定められていますけれども、とりわけ、減災のため、被害を減らすための放送をしなければなりません。

例えば大雨のときは、降り始めのときからその危険性について、大雨が降りますよということを伝えることによって、皆さんに早く避難してもらうというのに努めるというのが、まず一番大事なことだと思っています。ただ、それでもこの間の大島のように、大きな被害が出たときには、復旧の経過も含めて最後まで放送しなければならないと思っています。

それから、風評被害の話ですが、最近、市町村合併でそれぞれの自治体が大きくなったこともあって、自治体の一部の地域で被害を受けていることが中心部や自治体全てが被害を受けているように伝わるといふこともありますので、被害の伝え方は気をつけなければならないと考えています。それから、復興、回復しているところまで伝えるということも、大事なことだと思っています。先日の嵐山の被害については、有名な渡月橋周辺のお店が再開したことや、土砂が取り除かれたことなど、細かく放送しておりますが、あのとき同じ特別警報が京都と滋賀と福井と出ていましたので、先日、福井にお伺いした時に、「福井の復興は京都ほど丁寧に扱ってくれなかった」というご指摘をいただきました。そうした、放送の仕方、報道する際の配慮は必要だと認識をしておりますので、これからもその認識に立って放送していきたいと思ひます。

それから、連続テレビ小説と大河ドラマの件ですが、連続テレビ小説は全国の各県を一巡し、最後は埼玉県だったのですが、現在は、二巡目に入っているところです。大河ドラマについては、いつ、どこを取り上げるという放送の順番等はありませんが、同じ時代が2年連続しないようにするなど、考慮してテーマを決めていきます。今は幕末を扱っていますが、来年は黒田官兵衛ということで戦国時代を扱うなど配慮しています。その前の『平清盛』は更に遡った時代をテーマとしたように、時代や場所を変えながら制作しています。確かに長州・山口については、『花神』では主役でしたが、幕末を扱う時には必ず長州が登場します。主人公になっている大河ドラマが少ないというご指摘かと思ひますが、ドラマ全体を見ますと東日本より、西日本が舞台になっているものが多いということがあります。「大河ドラマ」について今決まっているのは、来年の『軍師官兵衛』までですので、再来年については、これからさらに検討して、年末か年明けには決めなければ準備が間に合わないところです。全国各地からもたくさんの要望をいただいておりますので、そうした声を受けとめながら、長州には、多くの題材がありますので、いろいろと検討させていただきたいと思ひしております。

(氏原局長)

豪雨災害がありました、NHK山口放送局でも、防災・減災報道に努めま

した。また、災害による風評被害を防ぎ山口県のみなさんを元気にするための情報発信にも努めました。例えば、萩では市内のホテルが「自分のところは大丈夫ですよ」ということをツイッターで全国に発信しているという報道や、徳佐のリンゴ園の開園といった話題など、いろいろと放送をさせていただきました。こうした情報は、東京でも全国放送という形で取り上げて全国に向けて発信されています。ただ、どうしても被害状況の発信というところが大きく目立ち、ご指摘の「後フォロー」といった部分がなかなか行き届いてないと思われる部分があったかと思えます。山口放送局としては、風評被害を防ぐための情報発信にも努力していきたくと思えますし、実際に努力もしました。みなさんからそういった情報をどんどん教えていただくことで情報発信ができるということもあります。我々も努力して参りますので、ぜひよろしくお願いいたします。

それから、山口の地域の話題を全国に発信するときに、地元の方にはわかりやすくても、他の県の方から見たらわかりにくい情報があるのではないかというご意見もいただきました。番組を完成させるまでには何回も試写を繰り返し、作り直したりしながら、そうしたことがないように努めているつもりです。また、NHK山口放送局に勤める者全員が地元山口出身ではなく、逆にそれほど多くないというのが実情で、そういう意味では、ご意見のようなことが起きないように十分なチェックが可能だとも思えます。ただ、そういうご意見があるということは、まだまだ我々の努力が足りない部分があるかと思えます。これからも努力していきたくと思えます。

NHKでは、視聴者のみなさまにモニターを募って番組へのご意見をいただいております。そういったご意見なども参考にしながら改善に努めていきたくと思えます。電話やメール等でもいろいろなご意見も伺っておりますので、何かお感のところがあれば、ぜひご意見等を頂戴できればと思えます。よろしくお願いいたします。

### 【会場参加者】

違った角度からNHKにお願いがある。私はいつもNHKテレビを、またラジオを見聞きしているが、家族全員が見ても決して恥ずかしくないいい番組だと賞賛している。私が今思っているのは、最近、孫が生まれたことで関心を持っていること。今、生まれてくる子供3人に1人は障害を持って生まれているといわれており、この計算でいくなら、単純に何十年先には、国民3人に1人は障害を持つ時代が来ると思う。この問題の原因を私は「食べること」「食事」だと思っている。そういう意味で放送、あるいはいろいろな場面で「食育」「食べることの大切さ」を教える、伝える番組を作ってほしい。

番組はおもしろくないかも知れない、視聴率も下がるかもしれない、それでもNHKには日本の将来にかかわる食育の教育というか放送をしてもらいたいし、出来ると思う。家庭で食べる食事が今本当に一番大切なときに来ていると思うので…。ラジオでも放送があったが、先日助産師さんの話を聞く機会があって、10代で産婦人科のお世話になっている女子について調べると家庭でお母さんが一生懸命手間をかけ暇をかけ、朝早くからとんとんと料理をつくってくれる。あるいは夕食を皆さんで囲んで食べているそういう家庭の子女子は一人もいらっしやいませんと断言されていた。コンビニで惣菜を買ってきて食べさせる。足りないといったらカップ麺でも食べなさいという家庭や、両親とも忙しくて帰らないので、カップ麺を食べることで済ましてしまう。あるいは面倒くさいと、冷蔵庫にある清涼飲料をかぶがぶと飲んでその日は終わってしまう。これがいかに恐ろしいことか、ということを警鐘する番組を是非とも作ってほしい。非常に難しいとも思うが日本の将来がかかっているのでぜひ取り組んでほしいと思う。

それと今人気のスマホや一昔前のゲーム機について。小学校でも長時間テレビゲーム機をすることの脳や感情に対する影響に警鐘を鳴らす取り組みがされている。スマホについては、大人がはまり込んで、仕事にならない、夜も眠れないという状況がある。かつて日本たばこが、「健康のために吸い過ぎに注意しましょう」という告知をしたとき、私は、大変強い英断を下したと思った。自社商品を、買わなくても良いという宣伝をしたわけで、その勇気をNHKにも持ってほしい。「食育は大事であるということ」や、今普及しているスマホやゲーム機が、発達段階に影響を与えるかを知らせる番組やキャンペーンなどの取り組みを公共放送、NHKにお願いしたい。

### 【会場参加者】

時間が迫っているので、ごく簡単にEテレの子ども番組について尋ねます。私もリタイアしてテレビを見ることが多くなりました。Eテレで最近気がついたのは、ほとんどの番組がスタジオでつくられていること。体験活動が非常に必要だと言われている中で、小さい子供たちが相手だからということでスタジオの中だけでいろんな番組がつくられている。そのことに大変危惧を覚えているので、野外でぜひ番組をつくってもらいと思う。

2つ目は、地名の呼称、呼び方について。現地で使われている言葉をそのままNHKでも使ってもらいたいというのが私の主張だが、文科省にも地名の呼称の考え方がある。新聞社協会の考え方もあり、NHKにも地名の取り上げ方があると思う。一番の例は、中国の地名で、漢字読みで取り上げている。半島では現地読みで取り上げたりしているが、できれば3者で統一をす

るような、そういう協議会を持ってもらって、国民にわかりやすくしてほしいと思う。それから、ときに、若いアナウンサーがわけのわからないことを言うことがあるので、気をつけてほしい。例えば「キーウイ」という食材を「キウイ」「キウイ」と言う。「キーウイ」は、ニュージーランドの鳥の名前から来ているもので、原語を調べると「キーウイフルーツ」となっている。これはほんの一例で、「ユーゴ・スラビア」を「ユーゴス・ラビア」というアナウンサーがいる。意味を調べて、「ユーゴ」と「スラビア」が合体した言葉だということがわかっていれば、それも伝えられるはずで、これが2点目。3点目は、最近使われる変な言葉、「すごいおもしろい」とか「すごい楽しい」という言い方について。NHKは民放よりしっかりしているので、その伝統は壊してもらいたくないと思うし、番組では「すごい」と言っているけど、テロップでは「すごく」と直していたりと、本当に大変な事だと思うが、NHKは、そういう言葉に対する文化創造の影響力が非常に強いということをもう一度認識してもらいたい。それからもう一つ、いつごろからか、NHKの女性アナウンサーのスカートが非常に短くなった。時代の流れなのかと思いつつも、大変びっくりしていて、大変、気にかかるので、検討を願いたい。

#### 【会場参加者】

昔、私たちは正しい言葉、きれいな言葉というのはNHKのアナウンサーがしゃべる言葉をまねなさい、あるいは手本にきなさいと言われてきた。最近番組を見ていると、先ほど話のあったように、アナウンサーが少ないからか、タレントさんがゲストにインタビューしたり、コメントを聞くということが多くある。そのときに「これは」とか「これが」とか、語尾を上げたり、イントネーションが違うということが多くある。今の時代の流れなのだろうか、かみさんにも話してみると、かみさんは、「そんなことを否定したら、番組なんか見る人がいなくなる」と言うが、果たしてそうだろうか、それで日本語は大丈夫なのだろうか？『ゆうどきネットワーク』でも、そういうことが多く、私は良く見ているので、食事中だったら皿をテレビにぶつけてやりたいような気がする。（笑）NHKは公共放送だからどういいう見解か聞きたい。

（司会）

『ゆうどきネットワーク』については、厳しく指導をしたり、しかったりしているのですが…。もちろん私だけが正しいとか、そういうことではないので、そこだけは申し上げておきます。でも絶対お皿は、投げないでくだ

さいね、本当に。大変ですから。

【会場参加者】

言葉のことが出たが、やはりNHKは美しい日本語で放送してもらいたいと思う。例を挙げれば、が行の「がぎぐげご」。これは語頭、言葉の初めに出てくるときには「がぎぐげご」で良いが、それ以外では鼻濁音でやるのが、本来の美しい言葉のはずだが、『スタジオパーク』の男性アナウンサーなどは、「が」と言う。「これが」とか、「それが」と、これは本当に聞きづらい。私が中学生のときに習ったのは「学校が午後5時に終わる」と、これをみんなです。学校の「が」は「が」でいいんです。あとの「が」は「学校が」なんですね。それから午後は午後じゃなしに午後5時に終わると、こういう言葉をアナウンサーは全部やっていただく。これは前にNHKに手紙を出したけれども、どうも採用されていない。ついでに「が」のことを言うと、『クイズホールドオン』でも司会の使う「が」に誤りが多い。先ほど、なるべくメインでアナウンサーを使って、サブにタレントをとという話があったが、『クイズホールドオン』はメインでタレントさんを使っている。

(司会)

鼻濁音に関しては、実は山口県にはもともと鼻濁音というものがございません。私も山口の生まれですので、えろ苦勞いたしました。もうそれは随分苦勞しましたが、そこはおっしゃるとおりでありまして、その辺は指導したいと思っております。

【会場参加者】

もう一つ気になることは、「見せてください」という場合の「さしすせそ」の使い方。「見してください」と言う。これが大変気になる。「さしてください」ではなく「させてください」も、お願いします。

(司会)

私も子供のころは「見してちょうだい」と言っていましたけれども、おっしゃるとおり、放送では「見せてください」と。その辺も注意したいと思います。ありがとうございます。

(下川理事)

まず食育の話ですけれども、NHKでも食の問題は大変大切な問題だと認識しております。先日の連休、11月3日から5日、NHKの東京の放送センタ

ーでは「NHK文化祭」と合わせてJAさんや大日本水産会などとの共同プロジェクト「ふるさとの食 につぼんの食」の地域イベントを開催しました。「日本の食文化の伝承」や「食育」などをテーマに全国で実施しているものです。特に子供の食については、何年か前になりますけれども『NHKスペシャル』で、「子供の食が危ない」というテーマで放送しました。これはNHKの教育番組部と、大学の先生方とで、継続的に子供の食事を何十年も継続して取材し、そこにどういふ変化があるか、特に最近朝食がいかに貧しいものになっていて、そのことが子供の性格形成にどんな影響を与えているのか、ということを取り上げた番組です。これ以外にも「食」に関してはさまざまな番組で取り上げており、「食文化」を継承する番組もつくっております。また、今回、「和食」が世界文化遺産になるという動きも取り上げ、番組を企画しているところですし、継続的に、子供の食の問題、食育の問題も取り上げていくつもりです。

それから、アナウンサーの言葉遣いですが、これは司会の山本アナウンサーが答えたほうがいいかもしれませんが、アナウンサーについては、かなり研修などで、発音や、イントネーションとか、そういう訓練は一生懸命やっているつもりですけれども、なお一層、注意していきたいと思います。それから、服装についてもさまざまなご意見があります。これについては、私も、以前『おはよう日本』を担当していた頃に、毎日女性アナウンサーの靴はおかしいと、似合っていないとか、若づくりだとかいろいろな意見が視聴者から寄せられます。ほかにも、スカートの長さですとか、いろいろなご意見をいただきます。私どもは、なるべく多くの人に不快感を与えないような、清潔感を与えるような、そういう服装を心がけていきたいと思いますし、今後も努力していきたいと思います。

(石田専務理事)

地名についてですが、NHKには、読み方をはじめとした放送の用語に関する委員会があり、いろいろと疑問の出たことについては一つ一つ専門家の方に検討してもらっています。原則として外国語、外来語や外国人の地名、人名などの表記はそれぞれの言葉が日本語としてどの程度定着しているかを考慮するという事になっています。また、長い時間の経過の中で、原音と異なる慣用が既に熟しており、一般的に多くの方が使っているものについては、慣用の形を尊重しており、慣用が熟していないものについては、なるべく原音に近く書きあらわすというのが、原則となっています。例えば、ルーマニアにブカレストという町がありますが、現地の呼称、発音では「ブクレシュチ」となるらしいんです。ただ、ブカレストという呼び方が、か



なり定着していますので、その呼び方を使用しているということがあって、今ご指摘あったように、それぞれの現地の発音などからすると、少し違っているというケースもあります。日本語は母音が大変多いですから、日本で、日本語で話すときに、しゃべりやすく変わったのが定着しているということがあるのは事実だと思います。それが適当かどうかということについては、いろいろな専門家の方のご意見を聞きながら判断しているということで、ご理解いただければと思います。

(司会)

本日は、さまざまなご意見を率直に言っていただき、本当に皆さんありがとうございました。時間となりましたので、最後に、この会全体を通しての感想、お礼を両委員からいただきたいと思います。まず、石原委員、お願いいたします。

(石原委員)

どうもありがとうございました。大変にいいお話をたくさん伺わせていただきました。全体としてNHKに対する思い、あるいは信頼を、みなさま方が大変お持ちでいらっしゃるという感じがいたしました。私どもNHKの経営委員としても、みなさま方の信頼を大切に、それをさらに育てていく必要があると感じました。

そういう中で、受信料の話がどうしても印象に残っています。「視聴者のみなさまと語る会」ではどこにお邪魔しても、この受信料の話は出てきます。

現在、受信料の支払い率は大体74%ぐらい。ということは4分の1くらいの方がテレビの受信機を持っていながら受信料を払っていないということです。アンケートをとるとこのことがNHKの一番の問題点、信頼ができないところだと指摘を受けるわけです。支払い率の向上に営業の人たちが一生懸命取り組んでいるところで、徐々に上がりつつありますが、国民全員がNHKという公共放送を支えるんだということで、受信料をきちっとお支払いいただけるよう、さらに努力していく必要があると、改めて感じました。

それから、やはり地域の放送局へ行きますと、必ずその地域についての放送をもっとやってほしい。特に全国ネットでやってほしい。そういう要望が必ずあるわけです。私も福岡にいますので、福岡をもっと放送してほしいという気持ちではありますが、NHKには、実は大変多くの地域を取り上げた放送があります。経済とか政治の動きはどうしても東京中心になるわけですが、全国に50を超える放送局がありますが、その地域のみなさんの要望は、自分の県、地域のことを、もっと放送してほしいということです。私

は、自然とか、いろいろな地域の祭り、イベント、人々の生活の姿など、東京ばかりでなく、それぞれの地域のいろいろな姿を映すことが大切だと思います。例えば私は『西日本の旅』や『鶴瓶の家族に乾杯』が大変好きです。先日は、『鶴瓶の家族に乾杯』で山口県の角島が取り上げられ、ああ、そういえばあそこへ行ったなど、今は、立派な橋がかかっているということも拝見できて、大変楽しい思いをしました。最近、安倍さんが総理になったからという訳ではないと思いますが、福岡から見ると、山口県が随分取り上げられているな、と感じていますが、地域を元気にするというのはNHKの大切な役割の一つですから、その辺はぜひご認識の上にNHKを引き続き応援していただきたいと思います。きょうは大変ありがとうございました。

(司会)

それでは、上田委員、お願いいたします。

(上田委員)

本当に本日は貴重なご意見を聞かせていただきまして、どうもありがとうございました。私は、経営委員になりましてまだ5か月ほどですが、改めて経営委員の役割の重さを再認識した次第です。任期3年という期間の中ではありますが、みなさまのご要望に応えられるようにしっかり努力していきたいと思います。私自身は、前職が商事会社にいた関係で、海外での勤務が随分長かったのですけれども、NHKにお世話になるようになりまして、前回は、この「視聴者のみなさまと語る会」で北海道、北見へお邪魔しましたが、NHKには、東京以外に、53の地方局があります。日本はこんなにすばらしいところがたくさんあるんだということを実は改めて感じている次第です。今回、山口にお伺いするという事で、先日、萩を舞台にした特集ドラマ『はじまりの歌』を拝見しました。私も幼少期に九州で育ったものですから、本当に何というんでしょうか、胸にじんと迫るすばらしい番組だと思いました。今後もそれぞれの地方からあのようなすばらしい番組が発信できるよう、また、それぞれの地方に気配り、目配りをした、そんなNHKになるように、私も今後の経営委員としての役割を果たせるよう、努力していきたいと思いますので、どうか引き続きよろしくお願いいたします。本日は、本当にありがとうございました。

＜視聴者のみなさまと語る会in山口＞参加者当日アンケート

参加者数 48 名

回収数 47 枚

→質問1:性別

男	女	未記入
33	10	4

→質問1:年齢

10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
0	1	1	6	11	21	7

→質問2:今回のイベントを何でお知りになりましたか(複数回答)

放送(テレビ)	放送(ラジオ)	HP	新聞	知人	その他	未記入
10	0	7	0	23	9	1

→質問3:今回のイベントに参加していかがでしたか

大変満足	満足	普通	不満	大変不満	未記入
8	31	7	0	0	1

→質問4:印象に残ったコーナーはどこでしたか(複数回答)

経営重要事項	経営全般	放送	トークショー	特になし	未記入
4	10	26	10	1	2

→質問5:NHK経営委員会の仕事を知っていましたか

よく知っていた	知っていた	知らなかった
4	20	23

→質問6:今回のイベントに参加して、NHK経営委員会の活動について理解が深まりましたか

深まった	変わらない	わからない
38	9	0

## 《自由記述欄》

### 経営全般について

- ・受信料を公平に取るというよりも、学生にはワンセグでもNHKを見てもらう事が、生活にゆとりのない者にもNHKを見てもらう事こそが、民の力を向上させることにつながると考えています。公共放送の役割とはそういうことではないかと思えます。「公平負担（この声は強烈で皆賛成ではありますが）」の意見にあまり引きずられずに、大局的な視点で経営されることを望みます。
- ・NHKオンデマンドがあるが、受信料を払っていただければ無料にするシステムはなぜ出来ないのか？とてもいいコンテンツなので。導入して欲しい。
- ・ケーブルTV経由で衛星放送を見ているが、アナログ放送モードでしか映らない。受信機はデジタルで、データ放送対応だが、丸々支払らわなければならないのは理解しづらい。また、細かいが、データ放送受信可否で受信料に差をつけてもいいのでは？
- ・「らじる☆らじる」は、次年度以降も続けてほしい。
- ・若者（スマホ等を使っている人）は、自分が受信料未払いであることは知らない人が多いのではないかと思います。学校に出向き、放送法、受信料、情報の読み取り方等、出前授業はされているだろうか。しっかり伝えてほしい。
- ・経営委員の選任が国会承認事項であることに政治的関与に不安を抱くことはやむを得ない。
- ・委員の活動状況（個別含む）をより多く発信することにより、その存在意義を示してもらいたい。

### 放送について

- ・山口局の自主制作番組をもっと作って全国に流して欲しい「GOTAISETSU」は、良かった。
- ・「小さな旅」の番組が良い。
- ・NHKのローカルニュースは、翌日も前日と同じ内容のものをやっている。取材も昼から来られる場合が多い。できれば、もっとたくさんの取材をいただき、多くのニュースを取り上げていただきたい
- ・NHK-FMの「今日はどこん〇〇」シリーズは大好きです。特にプロ野球ソング、鉄道関係です。
- ・Eテレで海外の子供番組をそのままの言語で放送して欲しいと思います。

色遣いなどその国々で、とてもきれいです。

- ・大河ドラマでは、山口県を舞台にしたドラマが長らく制作されていないという意見があった。もし、明治維新 150 周年で採用していただけるのであれば、女性を主役にする等、斬新な視点のものを是非お願いします。
- ・山口県の大河ドラマを是非放送してもらいたい
- ・「ごちそうさん」→ドラマということもあれば、どうしても明治に杏さんのような背が高い人が出るのが時代考証に合わないような気がする。実際に中身は見ていませんが、ひかれるようなドラマ？
- ・ニュース番組は必ず見えています。これからも公平で客観的な放送を期待しています。
- ・NHKのニュース番組はよく見えますが、朝 6:50 からのローカルでは、あまりに天気予報の時間が長いのでは？もっと地元のニュースを流してもらいたい。天気はインターネットで十分に情報がとれるので。
- ・NHK朝のニュース 6:44 から「生活情報」コーナーがありますが、少しでもだけ過ぎではないでしょうか？私的なことなどがよく流れていますが、少しはめをはずし過ぎ。不快な気持ちになる場合がある。
- ・テレビ東京の経済番組をよく見ます。NHKでも特集などで取り上げられてはいますが、継続（定期）的に取り上げられないものでしょうか？暗いテーマもいいですが、国民が元気になるテーマの番組をつくってもらいたい。
- ・NHK教育は、もう一段、日本の歴史を伝える番組を増やしてほしい。学校でも義務教育の中でも学べる時間が少なかったように思うし、理解をしていないと感じています。日中韓の政治についても認識の違いから出ていると思います。掘り下げたドキュメンタリー番組が増えることを望みます。掘り下げた番組は、NHKしかできないと思っています。
- ・アナウンサー主体の番組を！！

#### 運営・その他

- ・一般視聴者の意見が番組、経営に反映されれば意義あることだと思う。
- ・経営委員（5 人の人選が内閣総理大臣の“びいき”から選ばれているので、少し偏りすぎるのではないかと感じています（4 人は・・・）
- ・声について、少しスタッフ等にむらがあるようです。調整できないものかと思っています。
- ・会場はオープンでリラックスできてよかった。スタッフのみなさま、ありがとうございました。
- ・質問にまともに回答がなかったものがあつたが、きっちり答えて欲しかった

- た→経営委員人事のことで野党幹部の会見を放送しなかったことについて
- ・職員の方々の熱意を感じさせていただきました。
  - ・視聴者にとって、番組参加への敷居が低くなればより身近になるかと思う。
  - ・応募したすべての人に対して参加することができてよかったと思います。貴重な体験をありがとうございました。
  - ・今回の意見を是非今後の運営に活かして下さい。
  - ・皆さんの意見からNHKの公共性、NHKの意味、意義が改めてよくわかりました。災害後の復興した元気な姿の報道を宜しくお願いします。
  - ・今後も今回のようなイベントを実施して欲しい。
  - ・初めて参加させていただきました。NHKへの理解度が、これまで以上に深まりました。ありがとうございました。
  - ・事前アンケート内容の回答の一覧表を作成し、配付すれば、語る会がもう少し意味のあるものになり、盛り上がるのではないのでしょうか。
  - ・まだまだお伺いさせていただきたいことがございましたが、残念ながら時間切れとなりました。また、参加させていただければと存じます。
  - ・司会者によって堅苦しくなる意見発言が柔らかくなり、発言が活発になったように思いました。私も少し司会の役をいたしますので、大変参考になりました。
  - ・今回はじめてですが、機会があればまた出席したい。
  - ・記念品はラジオを配付したらいかがでしょうか？ラジオの視聴率の向上にもなると思います。（同様意見1）
  - ・NHKの経営に向けた意気込みがよくわかりました。皆様、頑張ってください。
  - ・このような会は、度々行っていただきたく希望します。
  - ・放送について進んだことがわかり、かなり勉強になりました。ありがとうございました。
  - ・山口局の主催で「語る会」も設けて欲しい。
  - ・山口局内の事前アンケートの内容も検討していただきたい。
  - ・「語る会」にいかにか若者参加を促進させるか検討の必要あり。